

I 調査研究の目的と方法

I 調査研究の目的

学校教育は、計画的・意図的な教育活動を目指し、「計画→実践→評価→改善」のサイクルを経ながら、その質を高めていくことが求められている。そのために、教師は日頃から研修を積み重ね、望ましい教育を目指し実践に取り組んでいる。このとき、研究も実践も目の前にいる子どもたちをできる限り正確に捉えることが必要である。

本調査研究は、国語科、社会科、算数・数学科、理科、外国語科における、十勝管内の子どもたちの学力の実態を客観的に把握し、各学校の学習指導の改善に資することを目的としたものである。

しかし、本研究は、日本図書文化協会の作成した「教研式標準学力検査C R T」というペーパーテストに表れた学力の範囲で分析や考察をしたものであるため限界があり、子どもたちの学力全体を判断するまでには至らない。

それらを踏まえて、当研究所では、各学校・教育委員会の協力を得ながら、「教研式標準学力検査C R T 3 学期実施版」を実施した学校を調査対象とし、十勝管内における診断結果を基に、次のような性格をもつ調査研究を行うこととする。

- ・ 小・中学校における、学年別・教科別・観点別・領域別の傾向を全国と比較検討する。
- ・ 全国と管内の比較から、各学校が学力の実態を把握し、学力の水準の維持・向上に役立てる。
- ・ 指導の改善に向けた考察を行い、そのための視点や具体的な指導の手立てを明らかにする。

2 調査研究の方法

(1) 調査の対象

- ・ 小学校 4 学年（国語、社会、算数、理科）
- ・ 小学校 6 学年（国語、社会、算数、理科、英語）
- ・ 中学校 2 学年（国語、社会、数学、理科、英語）

(2) 調査の方法

- ・ 小学校の社会、理科については、より正確な値を得るため、単式の教育課程を編成している学校を調査対象とし集計する。

I 調査研究の目的と方法

(3) 調査対象になる児童生徒数

	国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小学校 4 学年	1,092名	300名	1,095名	926名	—
小学校 6 学年	1,162名	1,101名	1,162名	1,102名	872名
中学校 2 学年	882名	881名	882名	876名	880名

(4) 調査実施期間

令和 4 年 12 月～令和 5 年 3 月

(5) 調査問題

小学校「教研式標準学力検査 C R T 3 学期実施版」(日本図書文化協会)

中学校「教研式標準学力検査 C R T 3 学期実施版」(日本図書文化協会)

(6) 調査実施の方法

- ① 検査を実施し、コンピュータ処理を行っている調査条件に合う全ての学校を対象とし、提供されたデータを基礎資料とする。
- ② 検査は、「教研式標準学力検査 C R T ・実施と利用の手引」に従い、対象校で実施する。

(7) 結果の処理

- ① 十勝と全国の通過率を比較して、統計的に差がある部分を記号で表している。
 - 「↑」… 全国の通過率と比較して高い
 - 「↓」… 全国の通過率と比較して低い
 - 「△」… 「↑」の傾向がより大きいことを示す
 - 「▼」… 「↓」の傾向がより大きいことを示す
 - 「空欄」… 有意差がない
- ② 上記資料に基づく改善の方策例を提示する。